

## コリント人への手紙第一 第 10 章 31 節

「あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」

少し前までは、食べる、飲む、働く、生きることのわけなどはあまり考えることはなかったのではないかと思う。毎日忙しく過ごし、いちいち考える暇が無いまま決められた場所に行き来してきたかもしれない。また、特段考える必要もないまま過ごしていたかもしれない。結局は考えることを放棄し、目先にある事柄に囚われ駆けずり回って、その繰り返しをていたかもしれない。

ところが、感染症が発生した今は、外出が自粛され、遊興施設は閉鎖状態、観光地への移動は控えるように、そして、出勤は極力避けテレワークが推奨されている。在宅時間が長く、暇を持て余す環境に半強制的に置かれた。感染症以前に比較するなら、何も出来ない、不自由とも言える程いろいろと自制、自粛を求められている。

それだけに、身の周りを見て、観察して、聞いて過ごすゆとり時間が多くなっている。暇な時間が多くなると、食べる、飲む、生きることを思う時間が与えられる。なぜ食べる、飲む、生きるわけを思う機会を与えられている。このチャンスを深く味わい、この先を豊かにできる。